

2023年度 学校推薦型選抜（一般推薦）実施内容

会津大学短期大学部 幼児教育学科

本学科では以下の内容で2023年度の選考を実施しましたので、参考にしてください。

記

【小論文】

[出題の内容とねらい]

本学のアドミッション・ポリシー（AP）は、

1. 子どもをはじめ、すべての人々を取り巻く環境の変化や諸問題を理解する基礎学力があり、自ら学び考える人
 2. 子どもをはじめ、すべての人々の個々の尊厳と権利を深く理解し、現代社会の抱える諸問題に向き合っていける人
 3. 幼児教育・社会福祉における専門性と倫理観を身につけて、地域社会において貢献しようとする意欲がある人
- 専門知識を身につける意欲、能力、適性がある人
であり、本学科は、幼児教育・保育・社会福祉の観点から、専門知識を身に付ける意欲、能力、適性がある人材の育成を目指している。

題材として取り上げた「発達障害」、「障がい受容」の理解、支援は、幼児教育・保育・社会福祉いずれの分野においても直面する課題の一つである。子どもの「発達障害」、母親の「障がい受容」の理解、支援には、保育者としても社会福祉士としても、母親の想いに寄り添った受容、共感といった姿勢から信頼関係が形成され、その信頼関係をもとに、専門的知識を活用した問題解決能力が必要となる。こうした点からも、出題内容を正しく理解した上で、今現在自身が感じる理解、そしてその理解からふさわしいと考える支援について自身の見解を論理的に解答することを求めている。なお、読解に当たって高度な専門知識を要しないものとし、適宜説明文を加筆した。

[採点のポイント]

解答の作成に当たっては、「発達障害」、「障がい受容」に関しての知識や事前学習を求めものではない。事例をよく読んだ上で自身が今現在ふさわしいと考える支援について丁寧に論述することを期待している。採点に当たっては、対人援助職を志す者として、受容、共感といった母親の想いに寄り添った姿勢とともに、具体的な支援方法について、問いを理解し、論理的思考力、文章作成能力を見ることに主眼を置いた。もちろん、「発達障害」、

「障がい受容」に関わる知識、体験があれば、より具体的な文章を書きやすくなることは言うまでもないがそれ自体が合否を決定づけるものではない。

採点は以下の観点（ア）～（ウ）の基づき 6 段階（A～F）で評価し点数化した。各受験者の得点は採点者毎の採点結果の平均値とする。

（ア） 解答の内容が本学及び本学科 AP に照らして適切なものとなっているか。

（イ） 与えられた課題文を正しく理解し、問いの条件に沿って解答しているか。

（ウ） 文章表現、表記が十分に推敲されており、論文構成が適切、かつ論理的な文章となっているか。

（エ） 誤字脱字や不適切な表現・表記がないか、解答用紙を用法は適切か。

・ 観点（ア）、（イ）、（ウ）についてそれぞれ 6 段階で評価する。評点は A(16 点)、B(14 点)、C(12 点)、D(10 点)、E(8 点)、F(5 点)である。なお、基準点を 12 点とする。

・ 観点（エ）については基礎点 2 点を与える。誤字脱字や不適切な表現・表記、不適切な解答用紙の用法一つにつき 0.5 点減点とする。

【面接】

【面接の形態】

- ・ 学科の面接員 2 名が受験生 1 人に対して面接を行う個人面接とする。
- ・ 面接は口頭試問とする。
- ・ 受験生 1 人あたりの面接時間は、20 分程度とする。
- ・ 面接の順序は居住地に基づいて順番を割り当てる。各試験会場の進捗に応じ、順番は前後する可能性がある。

【質問の内容とねらい】

本学科のアドミッション・ポリシーに照らしつつ、以下の点に関わる質問を行う。

「活動報告書」では、①姿勢・意欲、②明確な学び、③学びによる具体的な展望、④事前準備、「面接」では、①志望動機、②入学後の学習・生活に対する関心・意欲・態度、③幼稚園教諭、保育士、社会福祉士（ソーシャルワーカー）志望者としての資質・能力、④幼児教育や保育、社会福祉の問題に対する関心の度合い、⑤地域社会への貢献に関する意欲とする。

【採点のポイント】

上記の①～⑤について質問に対する答え方・態度・的確さ、主張の論理性・一貫性等と併せて総合的に評価する。評価は以下の点を特に重視するので留意すること。

- a) 幼児教育学科を志望した理由の妥当性
- b) 幼稚園教諭、保育士、社会福祉士(ソーシャルワーカー)養成校の学生として必要な

適性

c) 入学後の学習計画や学生生活に関わる意欲

【調査書】

[採点のポイント]

原則として採点しないが、受験者が同一で並んだ際は学業以外の活動を重視して採点する。